

支える・つなぐ・あゆむ

「大津市の不登校支援 30 年」

教育支援センター所長 中尾 ゆき

大津市では不登校対策として平成7年（まだ「登校拒否」と呼んでいた時代）に、生涯学習センターに教育相談室を設置し、児童生徒の対応を行ってきました。この30年の取り組みや、学校現場への子ども支援コーディネーターやスクールカウンセラーの配置などもあり、大津市の不登校児童生徒の数は全国を下回って推移しています。ただし、コロナ禍を経て、その数は全国同様に増加傾向にあるため、市独自の不登校支援事業を強化してきております。

当センターでは、ウイング、アウトリーチ型支援、教育相談等の中で、発達段階や心理面・環境面のアセスメントとプランニングにより、子どもたちや保護者の支援に力を入れ、学校復帰だけでなく、主体的な進路選択や社会的自立につなぐことを目指しています。市のウイングは、小学校3か所と中学校3か所を運営し、日々の学習活動や体験的活動、校外学習などを行い、信頼できる大人とのつながりや子どもたちどうしの関わりを大切にしています。さらに、当センターの公認心理師と教育支援員とによる「親子並行面談」を定期的に行い、本人や保護者の日々の悩みや不安などの相談に乗り寄り添っています。また、家から出にくい児童生徒には、公認心理師と教育支援員が自宅や自宅近くの場所で会い、学習活動や教育相談を行うアウトリーチ型支援を行っています。今年度は、市のウイングのノウハウをいかし、市立小・中学校に校内ウイングの設置を進めてまいりました。学校に足が向きにくかったり教室に入りづらかったりする児童生徒が、安心して過ごせる場所ができたことで登校につながり、信頼できる大人との関わりが充実することで、子どもたちどうしの関わりもできるようになってきたという嬉しい声もいただいております。

しかしながら不登校児童生徒の背景は様々で、不登校支援に対するニーズもそれぞれ異なる中で、フリースクールなどの民間施設・団体を利用する児童生徒も多く、地域や民間との連携を強化していく必要があります。そこで次年度は、学校とフリースクールなどの民間施設・団体と教育支援センターが連携し、それぞれの知見や資源を持ち寄って情報交換や意見交換を行う「スクラム会議」やフリースクールなどの民間施設・団体を利用して子どもや保護者に対しても定期的にカウンセリングの機会を設ける「スクラム面談」、フリースクールなどの民間施設・団体利用者支援補助を行うなどの新たな不登校支援を進めてまいります。

これまでの30年の不登校支援の積み上げを大切にしながら、「一人ひとりが輝き、ともに未来を創る大津の教育」を具現化すべく、不登校支援や教育相談、特別支援教育事業の充実・さらなる発展に向けて、職員が一丸となり取り組んでまいります。

令和6年度 大津市教育支援センター 事業報告

※各事業の数値は令和7年2月末時点のものです

電話相談 (月～土、9:00～17:00)

1206件の相談のうち学校が980件、保護者からが223件、子どもからが3件でした。相談内容の90パーセントが「不登校」と「行き渋り」で、ここ数年は、市立小・中学校だけでなく国立・私立学校の保護者や、祖父母からの相談が増えてきています。

来所面接相談 (月～土、9:00～16:30)

延べ1827件のうち、学校が2件、保護者が1002件、子どもが823件でした。中学校ウイングに通いながら、もしくは通うことを見据え生徒と保護者を対象に毎週同じ曜日・時間に行う「親子並行面談」は1月末で面談枠が全て埋まり、面談を隔週で行ったり面談の開始を少し待っていただいたりしながら59人を支援してきました。

教育支援ルーム「ウイング」

	ルーム名	場所	月	火	水	木	金	通級する児童・生徒数						合計
								1年	2年	3年	4年	5年	6年	
小学生	ウイングおの	小野児童館		○	○		○	1	2	2	3	3	3	36
	ウイングぜぜ	生涯学習センター		○	○	○		1	2	3	4	3	3	
	ウイングせた	瀬田北市民センター	○			○	○	0	0	0	1	3	2	
中学生	ウイング・レイク	明日都浜大津	○		○	○	○	0	5	6	/			45
	ウイング・スカイ		○	○		○	○	7	5	5				
	ウイング和邇	和邇文化センター		○			○	1	4	4				
	ウイング瀬田	瀬田東市民センター	○		○			2	5	1				

アウトリーチ型支援

家から出にくかったり学校に足が向きにくかったりする児童生徒に対して、教育支援員(教員OB)と公認心理師が学校と一緒にその要因や背景等の見立てを行い、自宅や市民センターなどで面談やカードゲームと一緒に楽しむことを通して、子どもが新しいことに興味を示すきっかけになるよう支援を行いました。支援を行った延べ人数は、小学生29名、中学生190名です。

就学相談(特別支援学級・学校等への就学) <申込人数>

保護者・学校・教育委員会が、子どもの学びの場について一緒に考える大切な機会です。

区分	R4	R5	R6
就学前	251人	237人	216人
小学生	276人	282人	271人
中学生	18人	27人	34人
合計	545人	546人	521人



ことばの教室

ことばに障害や課題のある幼児・児童・生徒を対象に、言語に関する相談指導を行いました。

教室名	場所	通級者数	指導件数
北部教室	志賀南幼稚園内	53人	578件
中央教室	明日都浜大津1階	34人	537件
南部教室	膳所小学校内	73人	1062件



令和7年度 充実事業・新規事業について

1 校内ウイング環境整備経費 **充実**

校内ウイングモデル校において、リラックスできる空間づくりなどの効果的な作用をした環境整備を参考に、市立小中学校の校内ウイング環境整備の充実を図るための経費となります。子どもとの信頼関係、保護者の安心感を取り戻す場となるよう充実してまいります。

2 アウトリーチ型支援の充実 **充実**

小学生対象の支援枠を充実し、小学校低学年で「行きしぶり」が始まったときに、不安感の高い子どもや保護者に対して、自宅や近くの支所等で教育支援員や公認心理師による面談を通じて関係を築き、子どもや家庭にあった支援の方策を検討してまいります。

3 スクラム会議 **新規**

学校とフリースクールなどの民間施設・団体と教育支援センターが連携し、情報交換や意見交換を行い、不登校支援に活かすことで子どもの社会的自立を目指します。

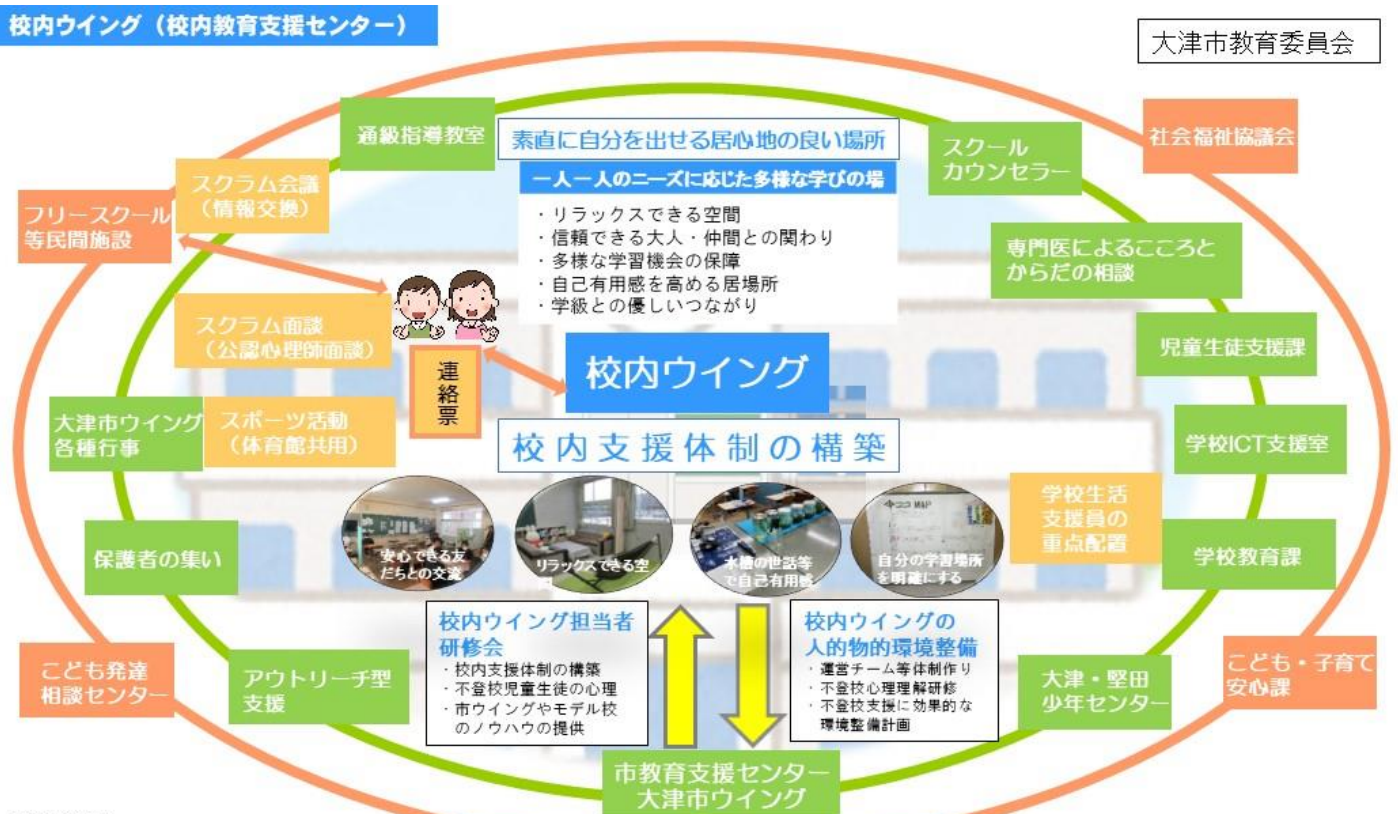
4 スクラム面談の実施 **新規**

フリースクール等を利用している児童生徒及び保護者が、教育支援センターの公認心理師と、日々の悩みや不安、出来事などを話せるような、定期的に面談をする機会を設けます。

5 フリースクール等民間施設利用者支援補助金 **新規**

フリースクール等を利用する児童生徒に対して、利用料の半額（上限1万円）を補助します。

校内ウイング（校内教育支援センター）



中学校ウイング日課

9:00~	☆初めタイム	みんなが集まるまで、ゆっくり過ごそう
9:30~	☆朝の会	心の準備をするのんびり時間 今日どんな1日かな?
10:00~	☆チャレンジタイム	自分のペースで学習しかなるをつけよう
11:30~	☆マイフラッシュタイム	好きな事や、やりたい事から始めよう
12:00~	☆昼食	おしゃべりしながら、休めい
13:00~	☆マイフラッシュタイム	
13:30~	☆ふれあいタイム	友だちと一緒に活動しよう
14:45~	☆帰りの会	今日はどんな1日だったかな?のんびり振り返ろう



【大津市ウイング行事(例)】		
5月:調理実習	11月:遠足、調理実習	
6月:音楽会、スポーツ活動、文化体験	12月:文化体験(茶道)	
7月:スポーツ活動、恵川自然体験	1月:スポーツ活動	
9月:文化体験(陶芸)	2月:科学鑑見学	
10月:環境学習、乗馬体験	3月:終了式	

◇ 校内ウイングの取組紹介 ◇

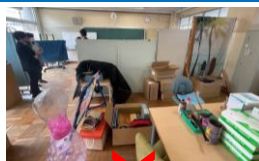
前号（大津市教育支援センターだより第51号）で紹介した校内教育支援センター（校内ウイング）のモデル校9つ（市が4校、県が5校）のうち、4校で10月24日から11月12日にかけて「校内ウイング公開」を実施しました。

今年度は、前・後期の公開のほか、9月の教頭研修会で校内ウイングを取り巻く状況を伝えたり、10月の担当教員研修会で公認心理師が校内ウイングの運営に活かす不登校の正しい理解と対応について講話をしたり、教育支援センターの職員がモデル校で定期的に支援を行ったり、市のウイングと校内ウイングとの連携を図りました。

【市】北大路中学校 ゆうの部屋（1階）

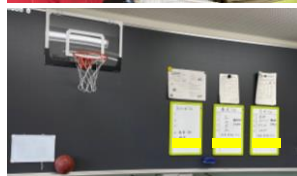
校歌の歌詞「友愛花と咲くところ…」に由来します。4月当初は物置部屋でしたが、担当教員を中心に環境整備と運営体制の改善に取り組みました。

生徒たちは、その日にすることを自分で決めて黒板に掲示したり、訪問客に急須でお茶を淹れたりしました。夏休みに体験校内ウイングを実施し、その後の利用につながるケースもありました。教員から「放課後登校ではなく授業中に本人とつながれるのはありがたい」という声がありました。



【市】晴嵐小学校 ひだまり（1階）

公開時は仮設校舎の2階でしたが、現在は新校舎1階の端にあります。ハンモック、テント、ストラックアウトなど教室とは全く違う空間の中で、子どもたちはゆったりと思い思いに過ごしています。ひだまりの利用を促すことで継続して登校できるようになったり、教室に入りづらい児童がひだまりで過ごす時間を取り入れることでスムーズに教室に入れたりしました。また、担当教員がいることで、子どもだけでなく、保護者の安心感にもつながっています。



【県】仰木中学校 サポートルーム（2階）

「学校とのつながりが途切れないための居場所づくり」をテーマとし、3つの機能（個別活動・グループ活動・相談）を持った環境としています。他の学校でも見られるように、ホワイトボード(WB)を仕切りや衝立として使うだけでなく、子どもたちが自由に絵を描いたり、教師と生徒とのコミュニケーションに使ったりしています。ちなみに教育支援センター内のWBには生徒たちによる絵しりとりが描かれています。



【県】瀬田北小学校 校内ウイング(1階)

これまでの別室（ポートルーム）に加えて校内ウイングも開設しました。児童の状態や支援内容によって使い分けをしています。

家庭以外で児童が安心して過ごせる居場所を作ることを目的の一つとし、ある男児は校内ウイングで野球を楽しんでいます。

また、小学校ウイング「せた」（瀬田北支所）に近いこともあり、校内ウイングと市のウイングとを併用する児童もいます。



◇ 不登校児童生徒支援連絡会議（スクラム会議） ◇

新年度から、学校とフリースクール等民間施設（FS）と教育委員会の3者が意見交換をする不登校児童生徒支援連絡会議、通称「スクラム会議」を開催します。それに先立ち、2月27日に4つのFSと校内ウイングのモデル校が出席して準備会を開きました。今後は年2回、市内の小・中学生が利用するFSの協力を得ながら、一緒に子どもたちの主体的な進路選択と社会的自立を目指します。



あ と が き

昨年11月に高校サッカーの県大会決勝を、年末年始には高校ラグビーの全国大会を観戦しに行きました。どちらもイングランド発祥のスポーツで、日本のスポーツ別競技人口はサッカーが1位ですが、ルールの難しさや複雑さはラグビーの方が勝っています。加えてラグビーはルール改正や用語変更がよく行われます。例えば現在トライは5点ですが、1992年までは4点で、さらにラグビー草創期はトライだけでは得点にならず、そのあとのゴールキック(コンバージョンキック)を試みる(トライする)権利が得られるだけでした。今年からはボールを前に落とす反則「ノックオン」が「ノックフォワード」に変更になるなど、他のスポーツと比べどことなく大らかさや柔軟さを感じます。一方でラグビーと言えば楕円球とスクラムです。ボールの転がっていく先が読みにくかったり、大柄選手8人ずつが組み合ったりする場面はラグビーの醍醐味です。大津市教育支援センターでは、子どもや保護者の揺れ動く心を受け止め、教育委員会と学校、さらに来年度からはフリースクール等民間施設がスクラムを組んで、新たな不登校支援にトライします。